

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では今年度も「一人ひとりの可能性を引き出しながら、主体的に学ぶとともに、自ら考え、判断し、決定して行動できる生徒を育成する」ことを学校課題とし、以下の取組を行った。

総合学科は〔学習活動〕では、重点課題として家庭学習習慣の確立と思考、協働、実行のサイクルの定着とした。生徒自ら学習目標や計画を立ててそれを達成できるように、担任等による面接指導を充実した。また、学習効果を上げるために自分の生活リズムや学習方法、学習時間について生徒自ら考えるように指導した。1学年「産業社会と人間」と2学年「総合的な探究の時間」を通じて社会人や地域の方々などと協働しながら企業課題や社会課題、興味課題に取り組む主体性や態度の育成に努めた。〔進路支援〕では、進路実現に向けて、1年次「産業社会と人間」で進路目標を明らかなものとし、2年次「総合的な探究の時間」の進路活動を通して自己理解を深め主体的に進路を考えるよう指導した。他に模試の分析や検討、推薦受験者に対する個別指導、志望理由書の指導など、全校体制で進路支援や面接指導の充実を図った。

看護科は〔学習活動〕では、「臨地実習」を通じて臨床看護を行うための資質・能力を育て、現場の課題に取り組む主体性や態度の育成を図り、人間尊重の精神を基本とした望ましい看護師の養成に努めた。

学校全体として、三つの方針（スクール・ポリシー）にある「身につけたい6つの力」（傾聴力・想像力・思考力・発信力・協働力・実行力）を学校行事等の際に意識させ、学期末に生徒に振り返りを行った。生徒の自己評価は目標としていた数値には届いていないが、外部連携は6つの力を身に着けるのに大きな影響を与えている。

学校アクションプランの達成目標11項目のうち、目標を達成したのは5項目であり、Bの評価が5項目であるため、総合評価をBとする。

7 次年度に向けての課題と方策

今年度の評価をもとに各項目について以下のように取り組んでいきたい。

「学習活動」・家庭学習習慣の確立と思考、協働、実行のリサイクルが定着するように、教育用クラウドサービスの活用や面談等を通して進路目標の早期の構築ができるよう継続して援助を行うとともに、探究活動の充実を図る。

「学校生活」・ルールに則ったスマートフォンの使用ができるよう、継続して指導に取り組んでいく必要がある。

- ・自転車の盗難防止のため、施錠する習慣を身につけさせるよう周知・指導をしていく。

「進路支援」・多様な進路志望や入学者選抜方式に対応できるよう体系的な指導体制の構築と情報共有を強化し、生徒個々の強みを活かす方式の選択と指導について継続して全校体制で行う必要がある。

- ・主体的な自分探しに向かう動機付けを行うため、学年や探究活動などと連携し、確かな学力でのものと進路実現に向けた取り組みが必要である。

「特別活動」・生徒による主体的な学校行事への取組を支援するため、継続して働きかけをしていく必要がある。

- ・「育てたい力」が向上できるように事前指導を充実させ、学級運営の向上を目指したい。

「看護教育の充実」・新教育課程を意識した授業の工夫や効果的な授業方法、評価方法の検討を図る。

- ・臨床判断能力育成のため、シミュレーション教育の充実とICT活用をより一層推進する。

生徒たちが様々な活動に主体的に取り組む学校を作っていくため、「富山いずみ高校三つの方針（スクールポリシー）」を学校全体で浸透させ、目指す学校像に向けた、さらなる具体的な改善を行っていきたい。